



青年部とは 自分の考えに固執せず、 視野を広げてくれる場所



【会社・仕事への思い】

解体工事はすべての始まり。後に控える新築工事にかかわるすべての方が円滑な関係で工事を進められるよう、地元や御施主様に心配りを忘れず、地域を大事にすることを心がけているそうです。「我々の仕事は、真っ白なキャンバスに戻すこと」というアーティスティックな言葉は、繊細かつ柔和な人物であることが伺えました。

【青年部に入会されたきっかけ】

他業種との交流や多くの方と知り合うことで自らの幅を広げたいという思いから入会されました。

【思い出に残る青年部活動】

振り返ればたくさんのいい思い出ばかりですが、ひとつだけと言われれば踊っただけの青年部活動だったかなと笑いながらお話をしていただいた中川さん。平成20年度に入会し、平成23年度には広域渉外委員会幹事、ジュニアエコミーカレッジのサポーターなどでご活躍されました。その中でも広域渉外委員会担当の6月例会でAKB48のダンスを、また平成24年度の五万石みこしではマイケル・ジャクソンのダンスを踊ったことが特に印象深いようです。踊りを通じて仲間との絆が深まったことが、青年部に入会してよかったと感じたと感慨深げな表情の中川さんは、最後に「でもダイエットには効果なかったけどね」とお茶目な一面を覗かせていました。

【趣味など】

趣味はドライブと映画だそうです。ドライブをするときは突発的に行かれる事が多く、夜から京都に日帰りに出掛けられたり、平均3~4時間の道を一人で走るのも全然苦にならないそうです。最近では三重県の尾鷲市まで息子さんと釣りに行かれたそうです。映画は好きですが、ホラー映画は苦手で、ちなみにホラー映画を見た後は一人でお風呂に入れないそうです。

【青年部とは・・・】

「自分の考えに固執せず、視野を広げてくれる場所」と語る目は、今までどうって変わり真剣な眼差しでした。委員会でのやり取りや、何気ない会話の中でもそれぞれのしっかりとした意見を感じ取る事が出来たことが、青年部での学びだと感じたそうです。そして我々後輩には「締めるところは締めて、遊ぶところは遊んでメリハリを大事にした生活を送ってほしい」とのお言葉を頂きました。

卒業することの寂しさを実感した中川さんは「卒業後も委員会に飛び入りしようかな」とおっしゃっていただきました。



取材担当/
人財育成委員会
鈴木博貴、金井淳一郎
丸山健一